

ムートンや天然皮革はファッション素材として定番になっていますが、その特性については十分に理解されていない部分もあるようです。今回は、動物から剥いだ皮を利用するムートンや皮革製品にみられる特有の変化について紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

素材  
特性  
に注意

### 衣類の状態

クリーニング後、左右の袖の風合いが違うとの申し出があったもの。その他、前後身頃など、各所のパーツでも縫い目を境に毛並みや風合いが異なった状態になっている。

### 事故の防止対策

ムートン毛皮の特性であるため、抜本的な解決方法はない。ムートン製品をクリーニングで受ける際には入念なチェックを行い、クリーニングによってパーツごとの状態の変化が明瞭になる可能性があることを利用者に伝え、了承を得た上で処理すること。

### 原因

動物の皮を剥いで加工するムートンは、工業製品のように毛並みの状態などが均一でないために生じる現象。天然毛皮では、こうし



ムートンのコート

### ムートンや天然皮革の主なチェック事項と利用者への伝達事項

- ムートンや天然皮革製品は、個体や裁断する部位の異なるパーツを集めて一着の縫製品とするため、縫い目を境にして色や毛並み、風合いに違いが生じることがある
- スエードやムートンなどの場合には、縫い目を境にして毛羽などの状態に違いが生じることがある
- 特に皮革の場合は、毛で隠されていた生体時の血管の痕や皮膚病、ケガの痕、ダニに刺された痕などがクリーニングで明瞭になることがある
- 著しい汚れや固着した汚れ、シミやカビなどは除去できないことがある
- クリーニング前には目立たなかったシミや目に見えないシミなどがクリーニングをすることで浮き出てくる可能性がある

### その他天然皮革の注意点

皮革と布帛を組み合わせた衣料品をクリーニングする場合、天然皮革と布帛では取扱い方法が異なることから、本来であれば皮革と布帛は全体を解体して、切り離した状態で別々の処理を行うことが理想である。

それができない場合には、皮革と布帛の構成割合に応じてどちらかを主体にしたクリーニングを行うことになるが、利用者にはあらかじめ皮革と布帛の両方を満足させるようなクリーニングはできないことを了解してもらうことが必要となる。

毛皮や皮革製品の変化は長期の保管の後に持ち込まれることが多いため、特有の変化が事故として見られることが多くある。取扱が増える前の今の時期に知識として認識しておき、適切に対応していくことが望まれる。



縫い合わせ部分の上下で毛並みの状態が異なっている



左右の袖の風合いが異なっている

■品名…コート  
 ■素材…羊革  
 ■取扱表示…  
 ■処理方法…パウダークリーニング、加熱静止乾燥

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp>「お知らせ」→「衣料管理情報」